

# めだかの学校だより

平成11年8月1日  
第25号

学舎：いなさ自然休養村  
くつきくさ  
事務局：引佐郡引佐町  
東久留女木 472-111  
TEL 053-545-0381

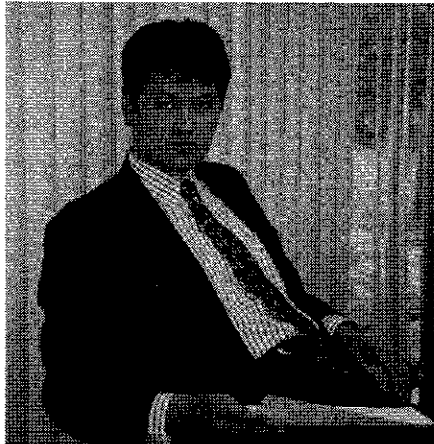
## 校長訓話

第二十五回校長 溝口 久

われ公務員なり

都市的生活が広まり、昔のような結いの心に支えられて村生活はますます後退している。

稼ぎに忙しく、かつて地域のパブリックな仕事であったお勤めの行政への流れは止まらない。いわゆる行政需要の拡大だ。



仕事の内容はますます複雑、人の思いも。地域をまとめる力はずでに殆どの地元人にならぬから、合意形成も行政の仕事だ。加えて地方分権の大きな流れも「自ら地域のことを考え施策を練り、実行せよ」と。

こりやおちおちしてられないと多くの公務員諸氏は緊張する。

今こそ、優秀なフットワークの良い公務員が求められているのである。

では、その求められる公務員像チエックリストを以下に上げてみる。

一、客観的、公平な判断をしてきたか

二、公私の使い分けをはっきりしてきたか

(私的欲求を公務に及ぼさなかったか)

三、責任がとれたか(逃げなかったか)

四、基本的に人間に優しいか

(弱者にも優しくなかったか)

五、住民の声に耳を傾けてきたか

六、遵法精神を持ちながら、時に法を超えるくらいの柔軟さをみせたか

七、時代の変化や未来をみつめ、適応する目と頭脳を磨いてきたか

以上、どこまでできているかと思われるといささか心もとないけど、これからも努力していくので応援して欲しい。

公務員は法律の元で個人や団体や地域のありようをしきるのだから、最初から人間欲望の泥沼に居座る宿命にある。そこで我師由布院の地域リーダー中谷健太郎氏曰く

「ハスの花になって咲きつづけてよ」と。そして「椅子を立てて町に出よう。そこには大勢の普通の人達が諸君を待っている。」とも。



## めだかの学校伝言板

..... 第25回めだかの学校を開校するので出席しなさい。開校日/平成11年9月3日(金)6:20PMより .....

校長/溝口 久・教頭/鈴木 正子  
用務員/池谷 豁  
給食係/本島慎一郎・今村純子・山口善門  
佐原 剛・山形 尚・天野智加志  
高橋俊充・鈴木真弓・上嶋裕志  
渡辺三ツ子(チーフ)

受付/前嶋康一・佐野文子・  
中村明男・服部守孝(後見人)

### 時間割

～去りゆく夏を惜しんで～星空のもと野外で。  
21世紀に何を残し、何を伝えていくことができるかー  
「生徒それぞれに“心に残った歌”を、50文字のメッセージに添えて歌おう!!!」  
音楽担当先生・音楽監修  
西原弘・成田雅志・藤城佐知子・加茂光廣  
小栗茂・石野省三

<学舎> 静岡県引佐郡引佐町奥山1737-286  
いなさ自然休養村「くつきくさ」  
☎ 053-543-0321 (開校日のみ)

# めだかの動き 泳ぎ回るめだかたち

## メダカが上流へ

地域にも確実に遺伝子があるのではない。時代の流れや環境の変化の中で時には急激に時にはゆったりと交わりながら、その土地の風景や風土が受け継がれ、歴史を重ね文化が生み出されていくのは、地域に遺伝子があるからだ。生物の遺伝子は、個体の形や大きさ、さまざまな働きとその度合いなどの情報を世代や世紀を越えて伝え、場合によっては細胞のガン化へのスイッチを入れたり細胞の寿命さえも制御しているらしい。ある地域が素晴らしいものも、またおかしな方向に進み出すのも地域遺伝子が元にあると考えることができる。地域の力を爆発させたり、ガンにしてしまう地域遺伝子がきつめる。地域の将来を考えた時、この地域遺伝子が重要である、早稲田大学の後藤春彦先生は言った。

人に未来が見えるか、残念ながら未来は私達に何も教えてくれない。それは、未来を誰も経験したことがないからであるという。それではどうするか、未来のヒントは過去にある。人の過去を探求して見ると必ず共通項があり、それは、「自然と共に生活してきたこと」、「コミュニティ」を形成してきたこと「などである」といふか言われたが忘れた、未来を考えると、こうした共通項に注目することが大きな自信につながる、哲学者の内山節先生は語った。

将来にわたって確実より普遍的な共通項を見つめるにはより深くしつかりと過去を考える必要がある。10年や100年前くらい遡っても、せいぜい1年か2年先が見えるかどうか。20年、30年先まで考えようとするれば、10000年はしつかりと知らなければならぬ。こんなような対談があったり、全国から集まった200人ほどの方々との交流会や地元の子供

達といっしょのワークショップなどが三日間にわたりに行われた「第三回日本上流文化園会議」1000年の学校イン南アルプス」が、七月中旬に大井川上流の本川根町であった。

地元本川根以外の県内参加者のほとんどは「メダカの学校」の生徒で、溝口久生徒が、仕掛人兼プロデューサーで会議の充実と成功の立役者であった。下河辺淳先生をコメンテーターとし、日本で唯一「焼畑農耕」を継承している宮崎県椎葉村の椎葉クニ子さんなどをパネリストに迎えた第7セッションでは、鈴木正士生徒がコーディネーターとして活躍した。その他の生徒も、とても真剣な参加者であると同時に、スタッフのお手伝いを生懸命やっていた。

私も、今村、尾上生徒や鈴木武史生徒ほかに応援してもらって、寸又峡温泉「ホテル翠紅苑」中庭で「二日目の交流会のあと」の「静岡深夜市」で手打ちそばを出店した。来年5月には「砂浜美術館」で知られた高知県大分町で開かれる予定である。(なんでもあり農園小作人の松)

## 村松達雄さんの「大阪だより」

先日、京都に行って舞妓さんに行ってきました。京都へは1時間ほどで行くことができます。感覚としては浜松に行くのと同じです。休日は何回か京都に行っています。

今回は、京都市観光協会主催の「五花街の夕べ」というもので、JR東海などと連携し、京都にある5つの花街が合同で年一回踊りや芸の披露を兼ね、一般の観光客と舞妓さんとの出会いの場所を作っています。存じのとおり、舞妓さんは一般の座敷には上がりません。いちげんさんでは、めつたに舞妓さんとは話をする事はできません。

舞妓さんといえは、京都、いや日本のシンボルのひとつといえるのではないかと思いますが、実は、あまり知らないのが現実ではないかと思うのです。舞妓、芸妓が京都にはいますが、その区別は、15〜20歳までが舞妓、それ以上が芸妓さんだそうなんです。どちらにしても結婚したらやめなければいけないそうです。

舞妓さんはいわば半人前、帯はだらりの帯、袖は挙げています。京都には約60人の舞妓さんがいるんだそうですが、最近では、舞妓体験なるものがある。一般の観光客がその格好をすることがあります。しかし、行儀の悪さが多少ひんしゅくを買っているようです。京都の町でカツラをつけた舞妓さんを見つけたら、この体験の舞妓さんです。

今回何より驚いたのは、舞妓さんの年齢です。18歳という年を聞き、同じ年の高校生と全く違う道を歩く彼女たちに、こんな生き方もあるんだと教えられたような気がしました。特に、舞妓さんになるのを選ぶには中学生の時です。お母さんも舞妓さんだったんですかと聞けばそうではなく、京都に生まれたことが舞妓になることを決めた理由に挙げていました。「自分で選んだ道ですから」とほんとに輝いていました。

(注) 村松達雄さんは、森町の職員で、県大阪出張所へ派遣されています。

## 【全国交流】

### ◇第11回地域づくり

団体全国研修交流会若手大会  
「知恵の輪 人の輪 自然の環 大自然と仲間になれ 若手に来て友だちになんべい」をテーマに、10月14日(木)15日(金)の2日間にわたって、若手県下閉伊郡田野畑村、ホテル羅賀荘を主会場に開催される。

会場へは、午前9時に盛岡駅より特別列車「銀河鉄道号」で2時半。車中ではミニ講演会を企画しているとのこと。11時受付開始、昼食・アトラクションで郷土芸能 大宮神楽を観劇、午後1時開会セレモニー。1時30分基調対談「地域を内と外からながめると」と題して、フリー・バイク・ジャーナリスト澤安央さんとプロ・レスラーのザ・グレートさんがトークよろしく対談する。3時から13の分科会場に分かれ、テーマごとに話し合いをする。今回もそうだが、全体での交流会はなく、

分科会と分散交流会を連動しているため、同一メンバーによる交流となつている。分科会のテーマは①郷土芸能の伝承で輝く地域づくり②あるさとの食・物を使った地域づくり③共に生き助け合いによりよく生きる地域づくり④情報の輪でつくる地域の未来⑤大地を生かした地域づくり⑥海を生かした地域づくり⑦歴史資産を生かした地域の活性化⑧広域連携による地域づくりは是非か⑨以上田野畑村。⑩津波と防災から生まれた地域づくり(田老町)⑪我ら多自然居住地域に生きる！(自然との共生・自然・食・ひと)。(若泉町)⑫心を地域へ・心を世界へ(賢治の世界・異途への出発(普代村)⑬地域資源を生かしたまちづくり。⑭地域の歴史・文化の魅力再発見以上2つ田野畑村。定員は①〜⑧、⑫⑬は25名。⑨⑩⑪が50名。

このように、少人数による分科会、分散交流会である。このような形態の場合、密度の濃い話し合いや交流はできるが、全国の多くの人との出会いや交流ができないのが残念である。それにしても主会場である、田野畑村の8つの分科会の担当は、この村の今回の開催にかける熱意が伝わってくる。そんなところを見てみたいし、じっくりと聞いてみたいものである。15日は午前8時から分散研修交流会・前日の続きである。午前11時半各会場ごと最寄りの三陸鉄道駅にて解散。参加費は七千円。宿泊費、交通費は別途。

参加申し込みは、各県の地域づくり協議会で取りまとめて申し込みますので、「めだか」の生徒は、事務局榎原まで連絡して下さい。締切は、8月31日までとします。

主会場の田野畑村は、太平洋沿岸で若手県でも青森県に近い位置にあります。浜松から新幹線ひかりで東京まで1時間45分。東京駅から盛岡まで新幹線特急「やまびこ」で、2時間45分。盛岡から田野畑まで乗り継いで2時間50分。

全国のおもしろ人と会える。時間とお金(？)価値をみつめて、ストレス解消にするのも興かも。

◆平成11年度しずおか未来づくり  
ネットワーク交流会議はどこのどこの

今年、三ヶ日町を主会場に、湖西市、三ヶ日町、細江町、引佐町の二市三町で交渉中です。武井紀夫、花井孝、榊原幸雄の三名が交渉役です。今回事務局まで連絡して下さい。ない場合は、指名させていただきます。よろしくお願いたします。



●我夢土下座  
フィールド・フォーク・コンサート

10月16日(土)浜松市産業展示館 ZIVAホールで午後6時より開きます。我夢土下座(かむとげざ)は、約30年ほど前に結成されたバンドで、現在まで日本のフォークソングを歌い続けています。全日本フォークジャンボリーなどの企画に参加し、日本のフォークを引張ってきた人々です。新曲「星の河をはじめ」小さな町「などの数多くのレパートリーがあります。入場料は1500円(中学生以下500円)チケットが沢山余っています。めだかの生徒だけが頼りです。皆さんの協力をお待ちしています。お申し込み・お問い合わせは、西原弘引佐郡細江町中川 TEL.05343668295 (事務局にもチケットあります。)

●かがり火の元で、3人の師範による「尺八の演奏を聞く会」

夏の夜、奥三河の地、東栄町「がらんどろ」で8月28日(土)午後4時より29日(日)午前10時まで開きます。会費4000円(泊、夕食・朝食含む)2000円(日帰り)で夕食のみ満天の下、かがり火の灯りで尺八を聞くのもいいものです。「がらんどろ」へは、浜松市から国道257号を通過して車で1時間50分。遅くの帰路は大変ですので、雑魚寝ですが宿泊風呂の用意はしています。演奏会のあと、飲みながら食べながら人生を語り合うのも興かなと思います。洗面具、着替え持参です。準備・夕食・朝食・片づけなどお手伝いできる方は協力ください。お申込み、お問い合わせは、平本尚久(北設楽郡東栄町・PM6時以降) TEL.0536793412 人数制限がありますので申込みはお早めに。

●森は海の恋人(もりまち)

8月29日(日)大洞院にて午後2時開会 講師は平成の宮沢賢治と呼ばれる「島山重篤先生」 まちづくり活動の環として、「森づくり」のすてきな講話を伺います。主催 森町まちづくりの会「オランタウン」 後援 森町(都市計画課) お問い合わせ 平川勇建築設計事務所&喫茶ルモンド TEL.0538850737 喫茶ルモンド TEL.0538854233 森町 都市計画課 TEL.0538852111(代)

●月見の宴

日時:9月23日(木)18:30 場所:長篠城跡(鳳来町長篠) 入場料大人500円 子ども(小学生以下)200円 主催 月見の宴実行委員会 問い合わせ 0536320022

●三河千一夜

日時 10月13日(水)・14日(木)19:00 場所 徳川園蘇山荘 (名古屋市中区徳川園内) 入場料 2500円(当日2800円) 主催 名古屋まちなか演劇祭実行委員会 問い合わせ 0532522403(檜山) ※前記の2つのイベントでは、昨年12月新城市の第3セクターのまちづくり会社「山湊」で催された鳳来町に伝わる民話「やすら姫」を「語り」と生の音楽邦楽で表現します。古への情緒を味わっていただくと同時に民話の中から私たちが後生に伝えるべきものは何かを感じ取っていただけたらと思います。(清水良文生徒)

●志多ら大府公演

日時 9月24日(金)19:00 場所:大府市勤労文化会館もちのきホール 入場料 中学生以上三千元(当日二千五百円) 4歳以上二千元(当日一千五百円) 主催 志多ら大府公演を見る会 問い合わせ 0536761708(志多ら)

●志多ら豊川チャリティー公演

日時 9月26日(日)13:30 場所 豊川勤労福祉会館(豊川市諏訪町) 入場料 中学生以上二千元(当日二千五百円) 小学生以下千円 主催 社会福祉法人「若竹荘」 問い合わせ 0533862533(若竹荘) ※志多らは東栄町の和太鼓演奏集団です。

●猫の手クラブに参加して「エコロジー遊びませんか」

日時 8月7日から11日まで 場所 豊岡 鈴木正士宅 春野 尾上美智子宅の山で 参加者 誰でもどこからでも参加OK 日程詳細は、鈴木正士生徒まで TEL.05399623428

※鈴木厚正さん 手作り情報誌 雑報縄文(月刊)編集発行 農林省からの持論を「猫の手クラブ」として 実践中 人手の足りない所へ労働力の提供 これこそ本物の農林行政

◆計報◆

第5回目教頭 坂柳享子さん(豊橋市バンリュウミ ユーリック・オフィス)が、7月10日午後1時25分浜松市三方原の聖隷三方原病院にて永遠の旅立ちをいたしました。謹んでご冥福をお祈りいたします。享子さんは、昨年9月の100文字の主張に「三河で18年、ジャズ普及活動の集大成として本場に価値のある「ジャズフェスティバル」を時間をかけてやってみる事」ジャズで始まりジャズで燃えつきる人生もいもんだよネ:「打ち上げ花火でおわらないようにしよう」と書いています。 ジャズを愛し、夫でジャズドラマーの坂柳博明さん(第5回の校長)と二人三脚で、数多くのジャズコンサート企画「プロデュース」し、病に冒されてからも病室に電話をひき、プロデュース活動をしている姿に感動した榊原幸雄生徒が、めだかの有志に呼びかけて「ふたりを励まそう」と企画したのが6月14日の夜浜松市田町ハートランドで催された「チチ・アップ・ジャズライブ」でした。当日、享子さんは体調よくなく出席できませんでしたが、日本で3本の指にはいるというテナーサクソの竹内直氏と、パンリュウ博明さんのドラミングのからみあいは、最高でした。220席用意した席は、趣旨に賛同した人々で満席でした。「こんな感動的なジャズライブは見たことがない」と言われるほどの素晴らしいことでした。出席できなかった享子さんのために、急遽西原弘生徒にビデオ撮影をお願いし、そのビデオを翌日、享子さんにプレゼントしました。ビデオに映る夫の演奏を食い入るように見つめる姿を後にして帰ってきた。ジャズライブを盛り上げてくれた「めだか」の実行委員のみなさん、本意にありがとうございました。追伸:「おもしろ人立」めだかの学校」とライブ企画の会(で、)靈前に、香料をあげさせていただきます。(事務局 榊原幸雄)

# トピックス

☆「三遠南信サミットin浜松」で、めだかの生徒が関係する2団体が表彰される。本島慎一郎生徒が会長のサンクラブが、北遠におけるフードマップの作成や、地域と情報誌とインターネットをリンクさせた。遊「Navi」など、10数年にわたる地道な活動が評価された。

上嶋裕志生徒が代表している、ゆかいな音楽の仲間たちが、関京子生徒の住む天竜村の廃校を会場としての「ゆかいな音楽会」が、県域を越えての交流と演奏活動が認められた。

☆上嶋裕志生徒、町議に7月25日(日)投票日の、細江町町議選に立候補し、見事初当選しました。おめでとーございませう。めだかの学校の生徒の議員は、県議の太田京子さん、警田市議の小柳泰弘さん、三ヶ日町議の山口善門さんの4人になりました。

☆匂坂玲子さんのバラ園が完成しました。広い温室に、水耕栽培されたバラが元気に育っています。秋には、20種類以上のバラの花が咲き誇り出荷されます。隣りに建設中の丸太の作業所が完成すれば、ドライフラワーやリースづくりの講習会もできるようになります。どうぞです。プレゼントにバラの花を差しあげたら、1輪、格好いいよ。

問い合わせ (浜松市神ヶ谷)  
TEL 053-4856460

☆事務局長の榎原幸雄さんのリンデンバウム3周年を記念して感謝の気持ちをこめて、8月1日〜9月30日までバラの花を専門に描く、画家中道芳美さんの「薔薇希望」展を開催しています。

## メダカ春秋

### ◆子育ては親育て、

### 自分育て、地域育て

人間の全細胞は、60兆個からできているそうです。そして、その細胞の二つの染色体にあるDNAに10万種類30億対の設計図があるそうです。言わば、人間一人は130年前からの先祖の合作になるそうです。まったく同じ人間は0に等しく存在しない確率になるそうです。

この話を聞いたとき、「子供は親のものではない。親が心中しようとして子供を道連れにしようなんてもつてのほかだ。」となぜか嬉しくなりました。というのは、最近新聞紙上を騒がせる幼児への虐待、パチンコ店の駐車場の車内中で子供の死亡事件、等々親の自覚はないのだろうかと思ふたしくなることがあまりにも多すぎるからです。身近なことでも、宣伝に惑わされて「この紙おむつは後2回は吸収できますから」とくっしり重たくなっているのに紙おむつを替えるようにしないお母さん。よその子が転んで血を流しても知らぬ存ぜぬのお母さん。悲しいですね。

あの偉大なマザーテレサの言葉で一番感心し、感動を受けたのは、「私はあなたを必要としている。」「不登校の子と接している時、いじめにあった子の母親と話している時、高校生からの電話相談を受けている時、考えます。この子を必要としている人はいるのだろうか。人間、この世でたった一人でも自分を必要としている人がいる、と感じた時、命の大切さを学ぶのです。」

私は子育てが大好きです。だつて、子育てを通じて学ぶことがいっぱいあっておもしろいからです。子育てのお手伝いをしながら、親自分、地域がやさしく育つことを願ってやみません。(山名れい子)

## ◆事務局だより

●七期第一回目の25会は、去りゆく夏を惜しみながら、星空の下、野外で開校することになりました。通年テーマである「21世紀に何を残すか」。それぞれの人生のなかで、きつと心に残る歌があると思います。それは童謡であるかも知れないし、小学唱歌かも知れない。あるいはフォークソングか演歌かも知れない。いろいろな出会いのなかで深く心に刻まれている歌を、一人一曲選んで、50文字のメッセージを添えて全員提出してもらおうことにしました。今ある自分の胸に問いかけながら、歌いあいましょう。語りあいましょう。

●「20世紀に足跡を残そう」特別教室は、10月20日(水)午後6時30分より、浜松市田町のハートランドにて「フラメンコライブ」元気が出る「21世紀へ」を開講します。

「あなたは21世紀に何を残すつもりですか?」20世紀も残すところ、あと1年と5ヶ月。あなたは20世紀に何を残します?「足跡を残そう!」と企画されたのが、フラメンコライブです。飲んで、食べて、ステップ踏んで、観劇しての5千円です。この特別教室は、めだかの生徒優先ではありませんが、一般の方へも開放しています。定員は250人。定員になり次第締切ります。お早めに。校長 佐野文子、教頭 田邊哲用、役員 高橋俊光。会をスムーズに進めるために、受付などクラブ員を募集します。25回開校時までに事務局まで連絡して下さい。

●2000年には、学外講師を交えた、特別公開講座「21世紀に何を残すか、何を伝えていくのか」シンポジウムを企画予定です。企画提案がありましたら、どしどし事務局までお寄せ下さい。お待ちしております。

●おもしろ人立「めだかの学校」建学のころ「覚えていきますか。知らない覚えないか?意識していないか?忘れたいか?」

「あそこへいけば変な、おもしろい人が集まってくるよ。おもしろい話が聞けるよ!」だけでは困るんです。ちゃんとした「建学のころ」があるんです。今回同封しますので、初心忘れるべからずです。新入生も継続生もしっかり読んでおいて下さい。(事務局 榎原幸雄)

### ■七期の入校手続きを!!

七期は11年9月1日から12年8月31日までです。新入生・継続生ともに手続きが必要です。

同封の入校申込書に記入し入校金1000円を添えて提出してください。在校生(継続生)で、手続きがなされてない方は至急手続きをしてください。

入校金納入をもって「めだかの学校生」となりますので、FAXでの申込みは受け付けません。特に今回は、申込み書に沿って名簿を作成し直しますので、自動的に名簿からはずれ、自動退学となります。

### ■各地のたよりの掲載について

各地でいろいろの催事があると思います。次回発行日は、11月1日ですので、10月20日までに事務局又はエヌビー静岡企画室照井泰子さんへ、FAXしてください。FAX 053-4310470まで。

### ●めだかの学校事務局

〒431-2531  
静岡県引佐郡引佐町東久留木  
472-1111  
「リンデンバウム」内 榎原幸雄  
TEL・FAX  
0535450381

※「つみかさ」は学舎のみです。すべての連絡・お問い合わせは、「事務局」にお願いいたします。